

芥川龍之介と萩原朔太郎 ―アフロリズムにみる5つのターム― (2F)

『月に吠えらんねえ』 龍くんと朔くん篇 (3F)

# この二人は あやしい



2018年10月27日(土)〜2019年1月20日(日) 9時〜17時 (入館は16時30分まで)

〔観覧料〕一般400円(朔太郎展示室もご覧になれます) 高校生以下無料

3階オープンギャラリーは無料。障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名無料。

〔観覧無料の日〕10月27日(土)展覧会初日 / 10月28日(日)県民の日 / 11月10日(土)・17日(土)・

12月8日(土)・15日(土)記念イベント開催日 / 1月9日(水)前橋初市まつり

〔休日〕水曜日 / 年末年始(12月29日(土)〜1月3日(木))

〔協力〕萩原朔太郎研究会・講談社



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

イラストレーション 清家雪子





芥川龍之介 1927(昭和2)年  
日本近代文学館提供



萩原朔太郎 1924(大正13)年

芥川龍之介と萩原朔太郎  
—アフォリズムにみる5つのテーマ—  
『月に吠えらんねえ』 龍くんと朔くん篇

# この二人は あやしい

芥川龍之介と萩原朔太郎。小説と詩というジャンルの違う文学者であった二人ですが、芥川が亡くなるまでの数年間は、近所に住むなど、交流がありました。

今回の企画展ではそんな二人が多く残したアフォリズムを取り上げます。同じ主題で書かれた芥川龍之介と萩原朔太郎のアフォリズムから、そこに現れる二人の違いや共通点などを、二人の交流エピソード等とあわせて紹介します。また、昨年開催して好評だった『月に吠えらんねえ』展の続編として、『月に吠えらんねえ』龍くんと朔くん篇を同時開催します。今回も多くの複製原画のほか、清家雪子さんによるオリジナル作品も紹介いたします。

## 記念イベント

講演「七匹の白蛇—萩原朔太郎と芥川龍之介」

講師 松浦寿輝さん (詩人・小説家・萩原朔太郎研究会会長)

12月15日(土) 14:00開演/会場3階ホール

\*11月3日(土・祝日)より受付開始

## 『月に吠えらんねえ』スペシャルトーク

出演 清家雪子さん (漫画家・月刊アフタヌーン『月に吠えらんねえ』作者)

萩原朔美 (前橋文学館館長)

11月17日(土) 13:00開演/会場3階ホール

\*10月28日(日)より受付開始

## 芥川を読む・朗読会&トーク

第1回 出演 迎 康子さん (NHKラジオ深夜便アナウンサー)

11月10日(土) 14:00開演/会場3階ホール

第2回 出演 松平定知さん (元NHKアナウンサー)

12月8日(土) 14:00開演/会場3階ホール

\*10月20日(土)より受付開始

## 学芸員による展示解説

11月3日(土・祝日)、12月1日(土)、1月12日(土)

各日とも 13:00~14:00

観覧券をご購入の上、2階展示室にお越しください。

## 《萩原朔太郎研究会情報》

### 【第48回萩原朔太郎研究会研究例会】

11月18日(日) 13:00開演/会場前橋文学館3階ホール

講演「郷愁と映像の詩人—朔太郎と蕪村」 高橋世織さん (文学研究者・日本映画大学教授)

発表 井村まなみさん (フランス文学研究者・群馬県立女子大学教授) 佐伯百々子さん (清泉女子大学大学院)

\*10月13日(土)より受付開始。萩原朔太郎研究会事務局 (前橋文学館) までお電話で。



## イベント申込

TEL.027-235-8011(9:00~17:00)

各回先着100名・参加費無料

〒371-0022

群馬県前橋市千代田町三丁目10

TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512

http://www.maebashibungakukan.jp/

## アクセス (交通案内)

電車 JR前橋駅から徒歩約20分

上毛電鉄中央前橋駅から徒歩5分

自動車 関越自動車道

前橋I.Cから車で約15分

市営パーク城東のご利用に際しては、

駐車券に割引処理をいたします。

## 萩原朔太郎の詩をテーマにしたムットーニ新作ボックスシアターを展示予定



## 二人のアフォリズムから 「人生」

芥川龍之介  
人生は落丁の多い書物に似てゐる。一部を成すとは称し難い。しかし兎に角一部を成してゐる。『侏儒の言葉』より「人生」

萩原朔太郎  
人生は始から賭け事であり、有り得べき百万千の事情の中で、一の予想さへ出来ないとこのいごのたがらめの偶然を賭けるのである。そしてしかも、成功するものは順調に成功し、失落するものは避けがたく失落して行く。アフォリズム拾遺「運命の書」

芥川龍之介  
人生は一箱のマッチに似てゐる。重大に扱ふのは莫迦々々しい。重大に扱はなければ危険である。『侏儒の言葉』より「人生」

萩原朔太郎  
人生は短かく、註釈は長し！歴史はかく嘆息する。『絶望の逃走』より「歴史の嘆息」



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

# 前橋文学館